



1 / 約3 kmにわたって断続的に続く上庶路の桜並木。庶路ダムの建設で道路が整備されるのに合わせて道路の両側に桜を植えました。2 / 今年も桜並木が見頃を迎え、訪れる人々を楽しませています。20年、30年後には誰がこの桜を守り、育てていくのか。寺澤さんは将来への不安もあります。3 / 「最初は自分で楽しめれば良いと思って桜の苗を育てていたけれど、皆さんにも楽しんでいただけたのなら、こんなにうれしいことはないですね」と話す寺澤さん。

所だから、桜並木で華やかにして、訪れる人を楽しんでもらおうと思っただけです。道路に隣接している自分の土地がありましたので、それで道路沿いに植えていったんです。桜が途切れ途切れになっていくのは国有地もあるからなんです。どうせなら繋げたいんですけどね(笑)。今では『桜きれいだったよ』と、声をかけてくれる人もいて、やって良かったなと思っています。インターチェンジもできましたし、車の通りも多くなりました。

仲間とともに

桜を植樹する前にシカ対策のカバーを用意するなど、いろいろな手間がかかる準備があります。それらはすべて一人でやっているのですが、何十本も植えるとなると、さすがに人手が必要です。そこで、友人に『手伝ってくれないか』と声を掛けたら気持ちよく承諾してくれて、当初は8人だったのですが、20人以上集まった年もありました。桜が好きで始めたことなのですが、桜が好きなのは一緒に植えてもらって、作業後はみんなで焼肉をしながら花見を楽しんでいます。